

関経連上海万博応援団 派遣報告

2010年7月27日～30日、村山敦・関経連上海万博応援団長（広域基盤整備委員会物流担当委員長）をはじめ上海万博応援団の38名が中国・上海を訪問した。わが国、そして関西の高度成長期のシンボリックなイベントであった大阪万博から40年経った。世界の経済成長をけん引する中国の一大経済都市であり、大阪府・大阪市と長年の友好関係にある上海市で2010年上海国際博覧会を視察するとともに、地元の有力経済団体である上海市経済団体連合会や在上海日系関係機関と懇談した。

在上海日系関係機関との懇談

応援団一行は、上海および中国の経済社会状況やビジネス環境、貿易・投資や観光分野における日中関係の現状と見通しなどについて、下記在上海日系関係機関との懇談を行った。

■在上海日本国総領事館

上海の長期滞在在留邦人数が48,000人と世界一であること、近年日本の中小零細企業の上海進出が目覚ましいことなどの話があった。ただ企業がトラブルに巻き込まれる件数も増加しており、スピードの速い中国の変化を正確に把握し、対応していくことが重要との指摘があった。

■上海日本商工クラブ

上海へ進出する日系企業が増え、同クラブの会員数も1982年発足当時の30法人から2,059法人といまや世界最大規模になった。ビジネス環境については、不正請求などのトラブルで赤字になる会社も多い自動車保険を扱う損害保険のマーケットを例に、中国特有のリスクに対してはスピーディーな対応が必要だと指摘があった。

■日本貿易振興機構（JETRO）上海代表処

中国経済の成長の核が、上海などの沿岸部から中部・内陸部へ移る一方、上海はポスト工業化、第3次産業を中心としたサービス経済化をはかっているとの説明があった。

中国への企業進出には、ビジネスチャンスも大きいがリスクも大きいとして、事前に進出分野やビジネスモデルを十分リサーチする必要があるとの指摘があった。

開催中の上海万博については、入場者の90%以上を占める中国人に上海の洗練された生活スタイルを示すモデル効果が期待されているとの話があった。

■日本政府観光局（JNTO）上海事務所

中国人観光客の人気の、関空イン～名古屋～東京～成田アウトの「ゴールデンルート」に集中しているが、リピーター獲得にはより多様なコースの開拓が必要で、たとえば地域のブランドを構築し、日本の各地方の良さを中国人旅行者にわかってもらうことが重要との指摘があった。

万博会場を見学、大阪－上海友好交流イベントに参加

7月27日、韓正・上海市長、橋下徹大阪府知事、平松邦夫大阪市長、大阪府民・市民訪問団はじめ700人

を超える参加者が集まり、大阪－上海友好交流の夕べが開催された。応援団一行も参加し、友好を深めた。

双方の文化紹介においては、中国側の孔雀のような美しく優雅な舞いに対し、大阪側は河内音頭を勢いよく披露した。



友好交流の夕べで披露された河内音頭

■万博見学、「なにわの日」イベント

応援団一行は「なにわの日」、すなわち大阪スペシャル・デーの7月28日に、上海万博を見学した。中国館や日本館、大阪館等のパビリオンを見学した後、大阪館近くの城市広場で開催された「大阪－上海友好盆踊り大会」に参加した。当日の万博入場者数は45万3,800人と平日入場者の最高記録を更新した。

盆踊り大会には、橋下知事、平松市長、上海万博応援団メンバーのほか、河内家菊水丸氏、中村美津子氏、府民・市民訪問団など約500名が参加した。上海市民も多数踊りの輪に参加し、会場は大いに

にぎわった。



大阪—上海友好盆踊り大会にて

上海市経済団体連合会との 経済協力交流会

7月29日は、地元の有力経済団体である上海市経済団体連合会(上海市経団連)と懇談した。本年1月に蒋以任・上海市経団連会長が来阪され、下妻会長と懇談した折、両団体間の交流・連携を密にしていきたいとの期待が表明され、今般の経済協力交流会の開催につながった。

冒頭挨拶で、陳祥麟・上海市経団連常務副会長は、関経連会員は上海と長期にわたるパートナー企業が多いとした上で、両団体間の交流強化への期待を表明。続いて両団体の協力備忘録締結式が行われ、川邊常務理事・事務局長と姜光裕・上海市経団連執行副会長が署名した。



村山団長ご挨拶

応援団側は、森修一・国際委員会副委員長、神谷明文・日立造船常務取締役、岡本仁志・大阪国際空港ター

ミナル常務取締役が発言した。

森氏は、関西における環境・省エネ問題への取り組みを「環境・エネルギー技術・製品事例集」を用いてアピールするとともに、同分野での中国との交流・連携の実績を紹介し、毎年秋に関経連がJETROおよび関西の経済団体と共催している「日中ビジネス・フォーラムin関西」への上海経済界からの多数の参加を呼び掛けた。

神谷氏は、同社の環境事業、特に主力事業である廃棄物発電・熱回収施設を中心に、ごみ焼却施設など環境ビジネスの概要を紹介。岡本氏は、関西の観光の魅力に加え、上海と関西との観光交流促進について紹介した。

上海側は張培璋・上海市経団連執行副会長と郁泉興・上海市造船工程管理学会高級顧問がスピーチした。張氏からは、エネルギー効率改善のために小さな発電所やセメント工場を閉鎖していることや、白熱電球の使用を止めているなどの身近な取り組みが紹介された。郁氏からは、上海の造船業界が過去5年で建造能力を2倍に伸ばすとともに、生産効率や労働生産性の向上に注力してきたことが語られた。また、溶接や塗装面での環境配慮など造船業における省エネ・排出削減の取り組みが紹介された。

最後のまとめでは、陳氏が「日中ビジネス・フォーラムin関西」への参加を上海市経団連会員企業に呼びかけたいと述べるとともに、来年以降、関西企業が有する優れた環境技術・製品を上海で紹介するような機会を設けていただければありがた

いと述べ、会議を締めくくった。

大阪環境・水技術セミナー in上海

上海市経団連との経済協力交流会と並行し、大阪市が上海万博大阪館『環境先進都市・水都大阪の挑戦』出展を記念したセミナーを開催した。

セミナーでは、平松市長の主催者挨拶、陳遠鳴・上海市水務局副局長の来賓挨拶、佐藤茂雄大商会頭の挨拶の後に、協力団体である関経連を代表して村山団長が挨拶。環境先進地域・関西の概要を紹介した後、上海万博応援団団長として上海を訪問していることや大阪での「日中ビジネス・フォーラムin関西」開催をPRした。

陳氏からは「持続的発展のため」「水は生きる源、文明のもと、戦略的な資源」であり、大阪の有する先進技術や経験に学びつつ、水資源の総合的利用、保全に貢献していきたいとの発言があり、その後、平松市長自らが大阪市の上下水道について技術プレゼンテーションを実施した。続いて、大阪館出展企業(日立造船、日東電工、積水アクアシステム、大成機工)によるプレゼンテーションと交流会が行われた。

当会では今後、協力備忘録に基づき、まずは本年11月の「日中ビジネス・フォーラムin関西」に、環境・省エネに関心を有する上海市経団連会員企業を招聘し、関西の環境関連施設の視察やビジネスマッチングの実施に取り組む予定である。

(国際部 樋口加奈子)